

選挙に行こう！安倍政権にNOを！

「集団的自衛権行使＝米軍の手先として戦場へ！」シリーズ2

安倍首相は選挙の焦点を「アベノミクス解散だ」と経済問題だけに目を向けさせようとしている。それは**集団的自衛権行使の問題や原発問題では支持率が落ちるから**である。しかし「選挙に勝てば何でもできる」と**戦争への道**に引きずり込まれるわけにはいかない。私たちはもう一度、集団的自衛権行使とは何なのか？を考えていく必要がある。

安倍内閣は2014年7月1日に「集団的自衛権の行使を認める」閣議決定をした。

集団的自衛権とは「日本と密接な外国への武力攻撃を、日本が直接攻撃されていないのに、実力で阻止する権利」のことをいう。「密接な外国」とは米国を想定している。つまり米国への武力攻撃があれば、日本も参戦するということだ。しかしこれまで米国がやってきた戦争とは、ベトナム・アフガン・イラクなど、つねに弱小国への軍事侵略であり、その侵略戦争に日本も軍事的に加担することになる。

これまで日本は朝鮮戦争やベトナム戦争など、後方基地として米軍の戦争に加担してきたが、軍隊として前線に立つことはなかった。それは憲法9条の縛りがあったからである。

従来の政府の立場は「憲法9条で許される自衛権は、自国を守るための必要最小限の範囲である。したがって集団的自衛権はこの範囲を超える」というものであった。

しかし今回は国会審議もなく、国民投票による憲法改正もなく、総理大臣が憲法違反を犯している。もはや「この国に民主主義は存在しない」ことを宣言したに等しい行為といえる。

売られてもいない他人のけんかに飛び込む

『集団的自衛権とは日本を守る話ではないんです。売られてもいない他人のけんかに、飛び込んでいくことです。安倍さんは自衛官に「殺されてこい」というのです。自衛官の仕事は日本を守ることで。見も知らぬ国に行って殺し殺されるのが仕事じゃない。アメリカと一緒に戦争した国は、かたっぱしからテロにあってます。イギリスもスペインも、ドイツも、フランスも、テロ事件が起きて市民が何人も殺害されてます。軍隊はテロを防げないんです。世界最強の米軍がテロを防げないんです。安倍総理は、外国で戦争が起きて、避難してくる日本人を乗せたアメリカ軍の船を、自衛隊が守らなければというが、日本人を米軍が守って避難させることは、絶対にありえません。アメリカ国防省のホームページに書いてあります。アメリカ市民でさえ、軍隊に余力があるときだけ救助すると書いてあります。ベトナム戦争の時、米軍は自分だけさっさと逃げ出しました。その時、逃げられなかった外国の軍隊は、赤十字に守られて脱出したんです。ろくすっぽ議論もしないで、嘘とごまかしで国会を乗り切ることはできるでしょう。でもね戦場は違うんです。命のやりとりをする場所なんです。憲法をねじ曲げる権限が内閣にはない。安倍さんは一回目のとき病気で辞めました。個人のアクシデントでつぶれるのが内閣です。そんなところで勝手に決めたら日本の国ががらりと変わる、そんなことはできません。これからが正念場です。』 元自衛官 泥憲和（どろ のりかず）さん 東京新聞より